

【特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会について】

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会は、1999 年（平成 11 年）に設立された全国ネットワークを有する唯一のひきこもり家族会（当事者団体）です。ひきこもりを抱えたご家族が社会的に孤立しないよう、全国約 60 の家族会と連携し、行政に働きかけながら、より良い支援の実現を目指しています。また、毎年ひきこもりに関する調査・研究も行っております。

また、KHJ 家族会は、当事者団体として、当事者視点からのひきこもり支援の在り方について先駆的な試みを行ってきました。ひきこもりの心理は、往々にして誤解されやすいため、当事者視点からの支援は極めて重要になると考えます。設立以来、協働して取り組んできた有識者、実践者と共に「ひきこもり地域支援ガイドブック」（平成 27 年度）が出版され、ひきこもりの長期高齢化を防ぐための実践的な取り組みについて、ガイドブック執筆者、実践者による研修会が定期的に行われています。平成 29 年度の全 4 回の研修には全国から 287 名が参加し、好評を得ています。

下記、研修会講師の一覧となります。各地で研修会が開催されます折には、お力添えさせていただきたく存じます。なお、各講師への連絡、調整依頼につきましては、KHJ 本部事務局までご一報いただきますようお願い申し上げます。

【研修会 派遣講師一覧について（敬称略：50 音順）】

●池上 正樹（いけがみ まさき）

通信社などの勤務を経てジャーナリスト。日本文藝家協会会員。YAHOO! ニュース個人オナー。

20 年以上にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、1000 人以上の当事者とやりとりしてきた。KHJ 全国ひきこもり家族会連合会を発足当初からサポートし、現在は広報担当理事。東日本大震災後は被災地に入り、ひきこもり当事者が震災でどう行動したかを調査。TV やラジオにも多数出演。2012 年から都内で開かれている対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵-IORI-」の設立メンバー。東京都町田市「ひきこもり」専門部会委員なども務める。著書は『ルポ「8050 問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』（河出新書）、『ルポひきこもり未満～ルールから外れた人たち』（集英社新書）、『ひきこもる女性たち』（ベスト新書）、『大人のひきこもり』（講談社現代新書）、『ダメダメな人生を変えたいM君と生活保護』（ポプラ新書）、『あのとき、大川小学校で何が起きたのか』（青志社/共著）など。



●伊藤 正俊（いとう まさとし）

1991 年 山形県米沢市で「登校拒否の子を持つ親の会」を立ち上げ
1995 年 山形県米沢市で「不登校親の会 山形県ネットワーク」を立ち上げ
2003 年 同会を「ひきこもり家族会」に変更
2005 年 全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）山形県支部として参加
2006 年 特定非営利活動法人「から・ころセンター」開設 代表理事就任
ひきこもり本人の居場所を開設・運営
2010 年 「から・ころセンター」が就労支援事業所として山形県から委託。
その後、就労継続支援 B 型作業所も受託し、高齢者宅への宅配事業や
レストラン事業を運営
2014 年 「全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）」副理事長に就任
2016 年 「KHJ 全国ひきこもり家族会連合会」に改称し、同年、共同代表に就任



●上田 理香（うえだ りか）

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会本部事務局長。家族支援士（日本家族カウンセリング協会認定）。KHJ 認定ピアサポーター。20代の頃、断続的な親子二重の社会的ひきこもりを経験。2012年よりKHJ全国ひきこもり家族会連合会に従事。全国の家族会立ち上げ、取り組みを支援する。2013年より家族会を対象にひきこもりピアサポーター養成研修事業を毎年、企画運営実施。本人や家族、協働する支援者が家族会ピアサポーターとして活躍している。その他、本人家族へのカウンセリング、親の学習会、兄弟姉妹の会、女子会（女性の居場所）を担当。また、KHJ ジャーナル「たびだち」企画編集では当事者のアイデアから活躍の場づくりをサポート。各自治体の講演会では、家族が孤立しない家族支援の重要性を伝えている。2019年度より、東京都ひきこもりに係る支援協議会委員。共著に『ひきこもり大学』（潮出版社）。



●川北 稔（かわきた みのる）



名古屋大学大学院 博士後期課程単位取得

2010年 愛知教育大学 教育学研究科 講師として着任

2014年より同大学 教育実践研究科 准教授

専門は社会学・教育社会学

ひきこもり・ニートに対する家族会を主体とした社会参加支援策の研究等、社会学的見地からのひきこもりに関する研究多数。

共著に『『ひきこもり』への社会学的アプローチ』（ミネルヴァ書房）

「KHJ 地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（共著）。

平成28年度、29年度は、生活困窮者窓口を対象に、ひきこもりの長期高年齢化の実態調査研究を実施している。

●斎藤 まさ子（さいとう まさこ）

新潟青陵大学大学院看護学研究科教授

新潟大学大学院法学研究科卒業。法学修士。

精神科臨床経験7年、看護専門学校6年の経験を経て、2006年新潟青陵大学に着任。

2014年より同大学教授。共著「地域資源を活かした発達障害のある子どもへの支援—療育・保育・教育の視点から—」（ウエストン）、「学生のための精神看護学」（医学書院）、他。ひきこもりの親の会支援プログラムに関する研究等、ひきこもり家族会に関する研究実績多数。「KHJ 地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版）。



●境 泉洋（さかい もとひろ）



宮崎県生まれ。1999年宮崎大学教育学部卒。2005年早稲田大学 博士（人間科学）。

公認心理師、臨床心理士。

2004年志学館大学、2007年徳島大学を経て、2018年4月から現職、宮崎大学教育学部准教授。

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会副代表、日本認知・行動療法学会事務局長、日本臨床心理士会ひきこもり対策専門委員会副委員長、内閣府「生活状況に関する調査」企画分析委員、NCNP 精神保健研究所薬物依存研究部客員研究員、認知行動療法研究常任編集委員、認知療法研究常任編集委員、雑誌「臨床心理学」（金剛出版）編集委員。

筆頭著書に「CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック」（金剛出版）、編著書に「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版）などがある。

●鈴木 美登里（すずき みどり）

NPO 法人「名古屋オレンジの会」理事、KHJ 本部顧問、社会福祉士
生活困窮者自立支援制度人材養成研修講師

「名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター大曾根」自立支援相談員を経て、現在、東海市にて自立支援相談員。1990 年から不登校支援、2001 年から引きこもり支援、訪問支援。20 年の実績。小、中、高校時代不登校。自らの経験を活かした本人支援、家族支援、カウンセリング、講演会などを行っている。訪問支援では長年の実績があり、生活自立、社会参加に向けて活動の場を設け、多くの若者が社会へ巣立っている。「KHJ 地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版）。



●高和 洋子（たかわようこ）



1998 年「子育てや家庭問題」に関するカウンセリングをはじめ。以後、座談会、研修会、親子活動、手作りお菓子教室「まるんくらぶ」をはじめ。2004 年社団法人青少年育成国民会議「青少年育成アドバイザー」に認定
2013 年 7 月不登校・ひきこもり並びにご家族支援を目的として NPO 法人はあとぴあ 21 を設立し、理事長に就任
2018 年中日新聞社「中日ボランティア賞」受賞
2018 年 8 月子ども・若者支援センターフレンズ、2019 年 4 月子ども・若者支援センターアリスを開設し、障害児通所施設として、不登校児童生徒の居場所、フリースクールとし、また親の相談場所、親の会定例会の会場としている。親の会は年間 40 回程度開催
2020 年 4 月高等学校卒業資格取得支援事業を始める、通信高校富山キャンパス校長に就任

家庭教育アドバイザー、障害者地域相談員、KHJ ひきこもりピアサポーター、障害児通所事業所児童指導員、管理者、NPO 法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会本部理事、富山県支部長、内閣府「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修」修了
内閣府[アウトリーチ(訪問研修)]修了、厚生労働省「子育て支援員研修」修了
不登校・ひきこもりの現状と支援の在り方について、多数講演

●田口 ゆりえ（たぐち ゆりえ）



特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 理事
特定非営利活動法人 KHJ 埼玉けやきの会家族会 代表理事
新潟市出身。看護師として大学病院などで勤務。29 歳でさいたま市へ転居。2006 年、埼玉県ひきこもり親の会に参加。2009 年から NPO 法人化し代表に就任。月例会、学習会、個別相談、CRAFT 認知行動療法を応用した相談支援、居場所、就労支援機関との連携、兄弟姉妹の会など取組みを拡充し日々精力的に活動をおこなっている。「ひきこもりの回復にとって、親子の愛情を立て直し、保持しつづけることが大切。そのために家族会がある」という信念のもとに家族への支援を第一に掲げて活動している。自身の体験、研究と支援の実践における成果を通し、各地の KHJ 家族会や地域での講演活動の他、本部主催のピアサポーター養成研修での講師を担当している。具体的で分かりやすいと定評がある。著書に「親亡きあとの子のマネーぷらん」「ひきこもりを生き抜く」。人生のモットーは「コシ

ヒカリのように粘り強く」

●竹中 哲夫（たけなか てつお）

1965年大阪市立大学文学部心理学専攻卒業。

同年京都市職員として京都市児童院（現・京都市児童福祉センター）に着任

1982年より日本福祉大学助教授、教授を経て、2009年退職。現日本福祉大学名誉教授。

臨床心理士。日本福祉大学心理臨床研究センター（心理臨床相談室）研修指導員として、ひきこもり支援に携わる。

著書に『ひきこもり支援論』（明石書店）、『子ども・若者支援地域協議会のミッションと展望 <増補版>長期・年長ひきこもりと若者支援地域ネットワーク』（かがわ出版）他 「KHJ地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版）。



●中垣内 正和（なかがいと まさかず）

昭和58年新潟大学医学部卒業

昭和62年新潟県立精神医療センター赴任

平成8年医学博士、「新潟精神医学賞」 県立精神医療センター「しへき治療棟」の開設に係る

平成14年同診療部長

平成15年第14回日本嗜癪行動学会（斎藤学理事長）長岡大会 大会長

平成17年医療法人佐潟荘に赴任、「ひきこもり外来」「アルコール外来」「摂食外来」開設

平成23年KHJ全国ひきこもり家族会連合会 副代表

平成26年「ひきこもり外来の実践」（論文）が「医学のあゆみ」誌に掲載される

平成27年「ながおか心のクリニック」開業

平成28年KHJ全国ひきこもり家族会連合会 共同代表

●深谷 守貞（ふかや もりさだ）

「特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会」本部事務局所属

ソーシャルワーカー（社会福祉士）

上智大学文学部社会福祉学科卒業。社会福祉士。

大学卒業後、社会福祉法人東京都社会福祉協議会に入職。福祉人材確保や住民参加型団体の事務局運営、第三者評価事業の企画等に従事。30代前半で希少難病に侵されるが、発症当初に病因を特定されぬまま精神疾患と誤診を受ける。誤った診断・服薬等が高じて事業に従事できなくなり、東京都社会福祉協議会を退職。向精神薬の過剰投与により幻聴・幻覚が生じて外出ができなくなり、更に自身の生きづらさに囚われて2年以上ひきこもる。

KHJ 東東京支部「楽の会」の居場所参加をきっかけに生きづらさと向き合う勇気を得て、社会復帰・社会参加に至った。2014年2月より特定非営利活動法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」本部において事務局運営、ソーシャルワーク業務に携わる。「兄弟姉妹の会」担当。

●藤岡 清人（ふじおか きよと）

<学業・勤務関係>

1975 広島大学工学部電子工学科卒業

1977 広島大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了

1977 中国電力入社 系統運用部・研究所副主査・工務部副長・鳥取支店企画担当課長・企画室マネージャー・営業所長等を歴任。情報通信部門通信システム部長を最後に退職。

2007 グループ企業役員に転籍し、取締役総務企画部長としてCSR関係をはじめ、人事・労務・総務・企画関

係等を含め情報関係も担当。障害者雇用についても尽力する。情報関係では営業支援システムの導入を図る。建設業の経営管理責任者を務める。

2015 グループ企業役員を任期満了にて退任。

<KHJ 家族会関係>

2002.1 KHJ 広島支部立ち上げセミナーに参加し、KHJ 広島「もみじの会」事務局長に就任。会報作成に従事。その後、元当事者の代表辞任に伴い代表に就任。

2013 厚労省社会福祉事業に基づくひきこもりピアサポーター養成講座受講

2015 内閣府アウトリーチ研修受講

2015 WAM 事業として KHJ 本部、KHJ 全国支部と連携し居場所事業を実施。

2016 KHJ 本部理事に就任

2019 広島県地域福祉支援計画策定委員会委員に就任

●船越 明子（ふなこし あきこ）



船越明子（ふなこし あきこ）神戸市看護大学 教授。神戸市出身。

ひきこもり青年をもつ親の支援については、ライフワークとして取り組んでおり、

家族会、ひきこもり地域支援センター、保健センター等で講演や助言活動を行っている。現在は、社会的に孤立状態にある人への訪問支援のノウハウを明らかにする調査研究に力を入れている。著書に「ひきこもり親の歩みと子どもの変化」（単著、新曜社）、地域における引きこもり支援ガイドブック（共著、金剛出版）など。

●増淵 由子（ますぶち よしこ）

オールイズワン研究所を経て、NPO 法人楽の会リーラ理事。同会ひきこもり電話相談員・カウンセラー。一般社団法人 OSD よりそいネットワーク理事・カウンセラー。東京メンタルヘルス（株）心理カウンセラー。日本精神保健社会学会会員。日本産業カウンセラー協会・産業カウンセラー。

<実績>佐倉市役所、東京都労働相談情報センター、神奈川県警察署、品川公共職業安定所（港湾労働事務所）、社会保険労務士事務所（加盟企業）、静岡県庁職員、東京都社会福祉協議会、千葉県総合教育センターその他多数。

NPO 法人楽の会（月例会・学習会・グループ相談会）。

<著書>「ここがコツ！実践カウンセリングのエッセンス」（日本文化社 分担執筆）

「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版・コラム）



●丸山 康彦（まるやま やすひこ）



不登校・ひきこもり生活研究所「ヒューマン・スタジオ」代表兼相談員。

不登校のため高校を7年かけて卒業。

大学卒業後、高校講師、ひきこもりを経て1999年4月に個人事務所を開設し、青少年支援の学習と活動を開始。

2001年 個人で同スタジオを設立し、不登校・ひきこもりの相談のほか、メールマガジンの執筆配信、家族会やセミナーの開催など多様な関連業務を企画実施。

「ひきこもり生活を楽に、楽しく、安心なものにする」という「ひきこもり生活の質（ひきこもりQOL）向上」を基本方針のひとつとして掲げている。

代表著書『不登校・ひきこもりが終わるとき―体験者が当事者と家族に語る、理解と対応の道しるべ』（ライフサポート社）、「KHJ 地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（共著）。

●山本 洋見（やまもと ひろみ）

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事。NPO 法人てくてく 理事長。

（法）日本家族カウンセリング協会会員。カウンセラー・家族相談士・家族支援士

厚労省認定ひきこもりピアサポーター



2005年のぞみの会設立

ひきこもり家族会をはじめる

2011年NPO 法人てくてくを設立

以来、ひきこもり・ニートの家族会、居場所を運営

カウンセラーとして相談、アウトリーチをしている。

<ひきこもり社会参加支援として農園「てくてくファーム」を運営>

- ・ガーデンアドバイザー
- ・RHS J 英国王立園芸協会会員
- ・ガーデニングマスター
- ・（社）日本家庭園芸普及協会認定
グリーンアドバイザー ・花咲く静岡アドバイザー
- ・インテリア コーディネーター No.981615
- ・日本色彩研究所 色彩指導員認定 No.179

<ガイドブック執筆者 講師一覧>

- ・中垣内正和（精神科医 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会共同代表）
- ・石川良子（松山大学 准教授）
- ・増淵由子（産業カウンセラー ひきこもり相談員、電話相談員）
- ・田中敦（NPO 法人レターポストフレンド相談ネットワーク理事長 NPO 法人 NODE 理事長） 以上